

山口県病院協会 会報

2018 **7月号** No.60

- 発行日 平成30年7月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 木下 毅
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



医療法人和同会 山口リハビリテーション病院

〒753-0851

山口市黒川3380番地

電 話 083-921-1616

F A X 083-925-2550

U R L : <http://www.yamariha.com>

CONTENTS (目次)

会員病院紹介.....	2 ページ
平成30年度定時総会.....	3 ページ
優良従業員表彰 受賞者一覧.....	4～5 ページ
協会役員コーナー.....	6 ページ
病院スタッフコーナー.....	7～8 ページ
平成30年春の叙勲／研修会報告.....	9 ページ
医療懇話会／事務長部会コーナー.....	10ページ
諸会議報告.....	11ページ
お知らせコーナー.....	12ページ

会員病院紹介

病院長挨拶



医療法人和同会
山口リハビリテーション病院
病院長 中安 清

開設以来30年間一貫してリハビリテーションを主とした医療を提供・継続してまいりました。当院の機能は急性期病院で治療を受けられた患者さんを早期にお受けし、必要とされるリハビリテーション医療を集中的に行う回復期リハビリテーション病棟（124床）と、身体的機能維持を目標とする生活期リハビリテーションを行う医療療養病棟（56床）に集約されております。特に回復期リハビリテーション病棟においては医師、看護師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等のセラピスト、MSWほかによるチームカンファランス・チームアプローチが徹底して行われ、障害の後遺症が残った患者さんが日常生活動作能力（ADL）を向上させることにより、早期に在宅復帰され、さらなる手段の日常生活動作能力（IADL）の獲得を目指されることを目標としております。

医療療養病棟には近隣施設、病院から年間約200人の患者さんを紹介いただいております。慢性疾患の急性増悪や合併多疾患の悪化等にて入院してこられますが、疾患の治療とともに療養病棟においても平均して2単位（20分間/1単位）のリハビリテーションを行い身体機能維持を図っています。

また関連施設として、介護老人保健施設をはじめ通所リハビリテーションセンター、訪問看護・訪問リハビリテーション、グループホーム、居宅介護支援事業所等を備え、医療・介護・福祉の連携体制が図られております。当院は今後とも質の高いリハビリテーション医療を提供できる医療機関としての軸足を変えず、地域に貢献し発展していきたいと考えております。

<山口リハビリテーション病院の現状>

1) 概要

開設者 医療法人和同会
住 所 山口市黒川3380番地
電 話 083-921-1616
E-mail yamariha@c-able.ne.jp
FAX 083-925-2550
URL <http://www.yamariha.com>
理事長 高橋 幹治
病院長 中安 清
診療科 内科・神経内科・整形外科・循環器科・小児科・リハビリテーション科・放射線科・歯科
病床数 180床
(回復期リハビリテーション病棟 124床、医療療養病棟 56床)

院内施設・関連施設

介護老人保健施設幸楽苑（100床）、山口幸楽苑通所リハビリテーション（120名/日）、山口リハビリテーション病院居宅介護支援事業所グループホーム山口リハ（18床）、訪問看護ステーションハローナース山口訪問看護、ほか

2) 沿革

昭和62年4月 特例許可老人病棟（180床）として開設
平成16年3月 回復期リハビリテーション病棟30床スタート（介護療養病棟60床、医療療養病棟90床）

平成17年11月 回復期リハビリテーション病棟 60床へ増床
平成19年12月 回復期リハビリテーション病棟 90床へ増床
平成28年5月 回復期リハビリテーション病棟124床へ増床（医療療養病棟 56床 計180床）

3) 特徴

リハビリテーションの対象疾患としては脳梗塞・脳出血等脳血管疾患が最も多く約60%（H29年度224名）、次いで大腿骨骨折等の運動器疾患が35%前後（H29年度128名）を占めております。

また当院の特徴として、

1. 自動車運転の評価・再獲得：運転練習コース、障害者用自動車、運転シミュレーターを備え、患者さんの社会復帰・復職に貢献しています。
2. 最新の知見と根拠に基づいたリハビリテーションの提供として、ロボット関連や種々の評価法・測定機器を取り入れ、患者さんの評価・リハビリテーションを行っています。
・歩行リハビリ支援ツール Tree
・上下肢の麻痺に対する低周波治療器PASシステムほか
3. 小児リハビリテーション：小児発達障害等専門医（非常勤）が主体に、自閉症、ADHD、学習障害等の発達障害のある小児を対象として、県内では数少ない小児リハビリテーション部門も早くより提供しております。

平成30年度 定時総会開催

日時 平成30年5月25日（金）15：00～16：15

場所 山口市小郡黄金町1番1号

山口グランドホテル 鳳凰の間



開 会

天津昇次事務局長による開会宣言がなされた。木下毅会長は挨拶で、同時改定や働き方改革を受け変化していく今後の医療環境の行方を注視し、対応していく必要性を述べた。

その後、来賓の村岡嗣政山口県知事（代理・山口県副知事 弘中勝久氏）、柳居俊学山口県議会議長（代理・県議会環境福祉委員会委員長 篠崎圭二氏）、河村康明山口県医師会会長より、それぞれ祝辞が述べられた。



弘中 勝久氏



篠崎 圭二氏



河村 康明氏

次いで、病院優良従業員の表彰状授与式が行われ、受賞者78名を代表して光風園病院の石井照子氏に表彰状と記念品が授与された。



石井 照子氏

総会成立宣言

審議に先立ち、木下議長より、総会出席者は当協会の会員総数132名に対して120名（うち委任状65名）であり、総会が有効に成立する旨宣言された。

議事録署名人選出

本日の議事録署名人として、三田尻病院神徳理事長、並びに玉木病院玉木病院長を選出した。

議案審議

○議案第1号

「平成29年度一般社団法人山口県病院協会事業報告及び収支決算の承認について」

天津事務局長より、平成29年度に実施した各種事業内容について詳細な説明と報告がなされた。

さらに、平成29年度における当協会の収支決算状況について収支決算書に基づき詳細な説明、報告があり、続いて尾中監事より平成29年度の事業並びに決算関係資料について城甲監事とともに詳細に検討した結果、いずれも適正かつ適切に処理されている旨監査報告が行われ、審議の結果、原案どおり可決承認された。

○議案第2号

「会費納入規則の一部改訂について」

介護医療院の創設に当たり、会費納入規則を一部改訂する旨の説明が行われ、承認された。

報告

議案の審議終了後、天津事務局長より、平成30年度事業計画及び収支予算について、詳細に説明が行われた。

閉 会

木下議長より、本日の定時総会はすべて終了したことが告げられ、議事の進行への協力に対する感謝の意を述べ閉会が宣言された。

◎ 特別講演

定時総会終了後、株式会社川原経営総合センター代表取締役社長の川原丈貴氏による特別講演「医療を守るために」が行われ、62名が聴講した。

川原氏は、医療コンサルティングに親子二代に渡って携わってこられた経験から、豊富なデータとその詳細な分析を基に講演された。経営改善に関するいくつかの具体例は、受講者にとって、おおいに今後の参考となった。



川原 丈貴氏



講演会風景

受賞おめでとうございます

平成30年度 病院優良従業員表彰 受賞者名簿

病 院 名	役 職	姓 名
阿 知 須 共 立 病 院	病 棟 師 長	石 田 則 子
〃	透析センター看護係長	河 内 ト シ 子
阿 知 須 同 仁 病 院	臨 床 検 査 技 師 長	小 郷 由 希 子
〃	准 看 護 師	境 津 矢 子
い し い 記 念 病 院	准 看 護 師	末 長 美 代 子
〃	准 看 護 師	原 田 京 子
泉 原 病 院	看 護 師 長	足 立 幸 子
〃	看 護 部 長	沖 和 幸 子
岩 国 病 院	助 産 師	上 河 山 美 智 子
岩 国 第 一 病 院	看 護 助 手	片 山 文 典 子
宇 部 記 念 病 院	看 護 科 長	桐 畑 早 苗 夫 子
〃	准 看 護 師	山 根 和 聡 子
宇 部 第 一 病 院	総 務 主 任	角 野 方 村 晴 節 真 由 美 保 子
〃	放 射 線 科 技 師 長	原 緒 中 川 弘 竹 吉 原 吉 久 長 谷 岡 岡 原 河 高 石 林 仲 星 新 井 濱 上 永 竹 田
宇 部 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院	介 護 福 祉 士	緒 方 村 端 中 本 田 村 保 川 井 田 村 丘 井 田 地 出 地 町 新 村 野 原 中
〃	看 護 師 長	
大 田 病 院	看 護 師 長	
〃	看 護 師 長	
小 郡 ま き は ら 病 院	准 看 護 師	
〃	事 務 員	
尾 中 病 院	看 護 副 師 長	
〃	社 会 福 祉 士	
片 倉 病 院	外 来 主 任 師	
〃	調 理 師	
鹿 野 博 愛 病 院	准 看 護 師	
吉 南 病 院	看 護 師	
〃	臨 床 検 査 技 師	
玖 珂 中 央 病 院	医 療 連 携 室 長	
〃	看 護 師 長	
光 風 園 病 院	看 護 師	
〃	准 看 護 師	
坂 本 病 院	理 学 療 法 士	
〃	事 務 員	
サ ン ポ プ ラ 病 院	看 護 師	
重 本 病 院	看 護 副 主 任	
〃	看 護 課 長	
下 関 市 立 豊 田 中 央 病 院	管 理 栄 養 士 主 査	
周 南 記 念 病 院	臨 床 検 査 技 師 科 長	
周 南 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院	病 棟 介 護 士 リ ー ド ー	
〃	保 育 課 主 任	

受賞者人数 78 名

協会役員コーナー

社会保障費と選択的介護（混合介護）



一般財団法人防府消化器病センター
防府胃腸病院
理事長 三浦 修

2040年には、65歳以上の人口が約4千万人とピークに達し、人口のほぼ3人に1人を占めることになります。このたびの政府の発表では、経済成長率を年2%前後として社会保障給付費は2040年度には190兆円に達するとの推計結果でした。2018年度と比較すると今後22年で実に60%増であり、GDPに占める割合も、2018年度の21.5%に比し、24%となる予想です。とくに高齢者数の増加で介護は2.4倍の約26兆円に膨らみ、医療は1.75倍の68兆5千億円に達するとみられています。

そういった中で、介護保険と保険外のサービスを組み合わせて提供する「選択的介護（混合介護）」を拡大する動きがあります。現在も選択的介護を一部認めています、その基準が曖昧であり、自治体によって運用に差が出ています。選択的介護を全く認めていない自治体も多いようですが、東京都では豊島区での特区構想を掲げており、今年度からモデル事業を開始する予定です。

選択的介護（混合介護）では、利用者の様々なニーズへの柔軟な対応とサービスを適用する事業者の運営効率を両立させることに主眼を置いています。付加価値を持ったサービスを提供し、それに見合った対価を求めることで収益を上げることは、すなわち介護事業に自由競争の原理を持ち込むことです。他業種に比べて2%近く低い介護事業者の利益率を自助努力で上げ、介護職員の給与を保障し、人材確保を促進するとの謳い文句ですが、これは介護保険制度そのものの不備を利用者と介護事業者に押し付けることにならないでしょうか。

今後、厚労省は選択的介護（混合介護）の認可基準を明確にして全国自治体に通知するということですが、保険内サービスの質を低下させる可能性や、介護事業者として高収益をもたらす保険外サービスへより大きく軸足を移すといった懸念はないのでしょうか。低所得者層を含めた給付の公平性を確保し、利用者の自立支援を損なわずに質の高いサービスが提供される制度設計が強く求められます。

専攻医採用状況をみて



社会福祉法人恩賜財団済生会支部
山口県済生会山口総合病院
病院長 城甲 啓治

いつも病院が頭を悩ませているのは、スタッフ不足である。山口県においては、ことに若い世代の医師不足は深刻である。これが解消されれば、病院のみならず医療界の多くの悩み事が解消される。ことに「医師の働き方改革」においては妙薬になると思われる。この問題は、今に始まったことではないが、大学の定員増、地域枠増などの対策で、そろそろ良い兆候がみられるのでは、とかすかな希望を持っていたところである。

本年3月、専攻医採用状況が発表された。全体8,394人のうち、山口県は46人。全国42位であった。初期研修マッチング数がここ数年増加し、平成29年には89マッチと全国26位までに回復していただけたに、落胆は大きかった。対して、上限設定していたはずの大都市圏、特に東京の一極集中が目立っている。近隣圏をカバーしているとはいえ、制限のあまさは歴然としている。もっと気になるのは、診療科別偏在である。外科1人・3県、産婦人科1人・5県、小児科1人・4県である。今後、需要がさらに高まる脳神

経外科は0人・10県、1人・8県である。勤務地・診療科選択の自由はよいし、その理由も至極もつものであるが、人は多きに流れるものである。何か具体的策はないものか、行政、大学の真価が問われている。ただ、この専門医研修を初期研修の連続と考える者にとっては、県内に専門研修病院の選択肢が少ない、すなわち関連病院の関与が少ないことも問題ではあるまいか。

病院スタッフコーナー

医療も宗教？



医療法人 錦病院
副院長

医師 藤本 浩一

医師になり1か月もたたない時期に大学で肺癌患者の主治医になりました。

その患者は自閉症で、入院後、なぜか僕としか会話しなからでした。娘が二人、長女は僕より2歳上、次女は同い年で、僕と友達のように話をしました。全身麻酔下開胸右上葉切除術が行われたのですが、術後 中葉壊死による膿胸を生じ、緊急で再開胸 中葉切除を行いました。手術は無事に終わり、術前いなかった次女が来院しました。長女から経過を聞いたものの、納得いかず、烈火のごとく怒りました。同い年でしたので容赦はありませんでした。見かねた長女が次女をなだめ、事態は落ち着きました。夜間、部屋へ行くと患者は泣きながら話しかけてきました。文句を言われるのであろうな、と思い、口元に近づくと、術後で痛いはずなのに両手で強く抱きしめられ、耳元で、“ごめんなさい”と謝るのです。 “どうして？”と聞くと、“次女がひどいことを言った”と。そばで寝ている次女を横目に、泣きじゃくる患者をなだめるのが精一杯でした。僕の肩を持つ患者に、次女は退院まで不満を愚痴りました。なぜか患者の信頼を得ていたことでトラブルにもならなかったのだと思い、以後、なるべく患者に信じてもらえる医師を目指してきました。

ある患者に、“宗教と同じなんだよ、どうだろうと君に診てほしいんだよ”と言われたことがあります。正直うれしかったです。そう言わしめる何かを、今後も探求・修得したいと思います。

若い「チーム医療」に感謝



医療法人愛命会
泉原病院

医師 篠原 淳一

私はひとりの医療従事者として長年精神科病院勤務をしている者です。

医学生時代に先輩医師から「君たち学生は多額の税金で勉強を続けている。卒業後はその分を十分世間様に還元するように」としばしば諭されました。実際の臨床医は卒後研修を終えてさらに長い研修を続けていきます。これは、刀鍛冶が一本の日本刀を仕上げるのに焼き入れと焼きなましを何回も繰り返すのによく似ています。医業の練磨鍛錬とも表現できます。

自説で恐縮ですが、卒後自分の診療科をマスターするのにまず10年必要と考えます。これが脳という臓器に精通するのに必要な時間です。他の診療科も同様だと思います。

最近の精神科医療現場ではチーム医療とか多種職連携と呼ばれ、医師を中心として看護系や薬剤系などとの連携で患者様ひとりひとりの治療を進めていくのが定番になっています。最近では薬剤師の方も病棟に出向いて薬剤の説明をすることもあるようです。薬学部が6年制に延長したのも薬剤師業務を実際の臨床現場と直結させるためです。医師としてひとりの患者様が勉学や仕事で社会参加していくのをみるのは何物にも代えがたい喜びです。

古来「医者は陰徳を積み」と言われる由縁です。

私は彼ら若い医療スタッフの絶えざる努力と困難な事例に立ち向かう向上心に心からの感謝をしたいと思います。彼らスタッフと一致協力してみんなの若い力で患者様ひとりひとりの社会復帰をサポートしていくのです。

病院スタッフコーナー

地域医療の中で院内外の連携を目指して



一般財団法人防府消化器病センター
防府胃腸病院
薬剤部長
薬剤師 栗林 左知

防府消化器病センターは、歴史の街、山口県防府市の海寄りほぼ中央に位置する消化器専門の急性期病院です。正面に防府市役所、右隣に防府警察署がある中、左手には桑山の緑が眺望できる立地環境となっています。外科を中心としますが、内科の充実も図り、専門領域も胃・大腸・肝・胆・膵臓そして食道、さらには今後肛門科や肛門外科も拡充、医科歯科連携などを予定しており、消化器病センター、集学的治療の場としての役割をより果たすことができるよう、医療機能の拡張や医療の質の向上に努めています。

また、地域包括ケアシステムの中で、今後はリハビリテーション機能を拡張し、在宅医療へのかかわりもシームレスな医療提供という視線で再構築を進めています。このような中で、薬剤師が貢献できることのひとつは、がん化学療法をより安全で質の高いものへ、安心して治療をうけていただくようサポートしていくことと、できるだけ副作用が日常生活に影響の出ない形で化学療法を完遂するサポートを行なうことではないかと思っています。また、院内の他職種との連携は当然として、在宅医療の中では調剤薬局の薬剤師との連携も深め、在宅における外来化学療法、入院での治療などに段差のないシームレスな薬物治療のサポートなどに取り組んで行きたいと思います。ひとりひとりの患者さんにとっては、入院中も在宅での療養も人生のひとつの流れのなかにあります。化学療法に限らず、できる限り患者さんの視点に立って医療、薬物療法が提供できるような薬剤師となれるよう、皆で努力したいと思っています。

感謝の言葉 ～やりがいと責任感～



医療法人医誠会
都志見病院
技師長補佐・臨床工学技士

野村 知由樹

「ありがとう！」この言葉を聞く度に、私はこの仕事をやっていてよかった！と思うと同時に改めて責任の重さを実感します。

臨床工学技士（CE）は医療機器の専門家として病院内の至る所で活躍していますが、医療機器管理室での機器の保守管理や手術室、心臓カテーテル検査室、集中治療室、人工透析室など一般の外来患者様の目につかない場所での業務が多く、認知度も低いのが現状です。

そのようなCEが、患者様と密接に長くお付き合いする業務がペースメーカなどの心臓植え込みデバイス（CIEDs）業務と人工透析業務です。

どちらの業務も患者様の病状や生活スタイルなどに合わせて治療内容をカスタマイズする必要があり、我々CEはその工学的知識を活かし、医師をはじめ他のメディカルスタッフと共にチームの一員として患者様と関わっています。

特にCIEDs業務では患者様の訴えによく耳を傾け、使用しているデバイスの特徴を活かした機能の選択や、設定の変更を提案することがあります。

ペースメーカのタイミング設定を100分の2秒変更しただけで、その日のうちに患者様から「野村くん、昨日までのえらさがウソのように楽になったよ！ありがとう！」と電話を頂いた時は、この仕事をしていたよかった！と思える瞬間です。

同時に、この手に持った、わずか100分の2秒という設定変更を操るプログラマ（ペースメーカの設定変更などを行う機器）のペン先の重さに身が引き締まり初心に戻る瞬間でもあります。

瑞宝小綬章受章 おめでとうございます

平成30年春の叙勲におきまして、当協会の推薦により、現常任理事で医療法人社団愛命会理事長の 吉田 延 先生が、保健衛生に尽くされた功績により、瑞宝小綬章を授与されました。心よりお祝い申し上げます。

今後ともご健康に留意され、今後の地域医療におけるますますのご活躍をご期待申し上げます。

主な経歴

昭和46年4月～昭和52年3月	周東総合病院等勤務
昭和52年4月～昭和63年3月	医療法人愛命会徳山精神病院 (現泉原病院) 勤務
昭和63年4月～平成17年3月	医療法人愛命会 泉原病院病院長
平成3年2月～現在	医療法人愛命会 理事長
平成17年4月～現在	医療法人愛命会 大田病院病院長
平成8年4月～平成10年3月	徳山医師会理事
平成13年4月～平成22年3月	山口県精神科病院協会理事・ 副会長・会長
平成15年4月～現在	山口県病院協会理事・常任理事



吉田延先生、奥様と



瑞宝小綬章

研修会報告

平成30年度 病院初級職員研修会

平成30年6月6日（水）山口県総合保健会館第1研修室において、病院初級職員研修会が開催され、198名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ	「山口県下の病院の概況」
講師	山口県病院協会 事務局長 天津 昇次
テーマ	「接遇研修 基本マナー ～心を形に、形に心を～」
講師	株式会社エバルス 営業戦略部 平田 清美 氏

病院協会の天津事務局長による山口県下病院の概況について説明があったのち、平田氏による接遇研修が行われた。

平田氏は、医療におけるサービスには「やさしさ」が求められるとし、適切な態度や言葉遣いができるよう、多くの実践を交えて研修が行われた。



平田 清美氏



研修会風景

医療懇話会報告

平成30年6月8日（金）午後4時より山口市湯田温泉ユウベルホテル松政において、平成30年度医療懇話会が開催された。山口県健康福祉部から中野部長ほか11名、山口県病院協会から木下会長ほか20名が出席した。木下会長と中野部長の挨拶に続いて、健康福祉部の各課長から平成30年度の山口県健康福祉部の事業概要について説明があった。



中野部長挨拶



木下会長挨拶



医療懇話会風景

なお、事前に以下の質問事項の提出があり、それぞれに県担当課長より回答が為された。

- ・無医地区、準無医地区における医療支援体制について
- ・アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の普及、啓発活動について
- ・働き方改革について
- ・地域医療構想調整会議について
- ・介護医療院への転換支援について
- ・介護医療院への県内の転換状況について
- ・地域医療構想の中で、介護医療院への転換が医療計画の修正へ反映されていくかどうか
- ・公的病院の建て替えと地域医療調整会議との関係はどうなっているか
- ・医学生への県の奨学金返済猶予のための県内勤務実績に民間病院も一定期間の範囲で認める事は出来ないか
- ・「在宅療養後方支援病院」について、200床未満の病院も地域に貢献できないか

事務長部会コーナー

平成30年度 山口県病院協会事務長部会 第1回全体幹事会

日 時 平成30年4月20日（金）16：30～18：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 平成30年度総会及び第1回研修会について
2. 平成30年度役員の補充選任について
3. その他

諸会議報告

平成29年度 第6回理事会

日 時 平成30年3月27日（火）15：30～17：00
開催場所 新山口ターミナルホテル

【議事次第】

1. 一般社団法人山口県病院協会平成30年度事業計画並びに収支予算書の設定について

【承認事項】

1. 平成29年度病院協会収支決算予測について

【報告事項】

1. 病院初級職員研修会開催について
2. 県行政委員等の推薦について
 - ・山口県医師会地域医療対策委員会委員
会 長 木下 毅（再任）
 - ・山口県救急業務高度化推進協議会委員
副会長 三浦 修（再任）
 - ・山口県社会福祉審議会委員
副会長 三浦 修（再任）
 - ・山口県献血推進協議会委員
副会長 水田 英司（再任）
 - ・山口県医療勤務環境改善支援センター運営協議会委員
常任理事 神徳 眞也（再任）
 - ・宇部市都市再生推進協議会委員
監 事 尾中 宇蘭（再任）
 - ・医療電波利用中国協議会構成員
事務局 長 天津 昇次（新任）
3. 県各種委員会等の結果報告について

木下会長

 - ・山口県医療対策協議会（2月15日）
 - ・山口県医療審議会（2月23日）
 - ・山口県医療審議会医療法人部会（2月23日）

三浦副会長

 - ・山口県救急業務高度化推進協議会・幹事会
合同会議（2月15日）
 - ・山口県予防保険協会定例理事会（3月22日）

水田副会長

 - ・山口県医療費適正化推進協議会（2月20日）

高橋常任理事

 - ・山口県高齢者保健福祉推進協議会（2月22日）

玉木常任理事

 - ・山口県訪問看護推進協議会（3月22日）

馬場常任理事

 - ・健康やまぐち21推進協議会（1月18日）

名西理事

 - ・山口県がん対策協議会（2月20日）

村上理事

 - ・山口県肝炎対策協議会（2月20日）

4. その他

- ・災害拠点病院向けBCPワークショップセミナーについて
- ・県審議会、他団体役員会、行事等の出席確認について
- ・山口ゆめ花博 前売入場券について

平成30年度 第1回理事会

日 時 平成30年5月18日（金）16：30～18：00
開催場所 山口グランドホテル

【議事次第】

1. 平成30年度定時総会提出議案について
 - ・平成29年度事業報告及び収支決算について
 - ・会費納入規則の一部改訂について

【承認事項】

1. 平成30年度病院優良従業員表彰について
2. 平成30年度医療懇話会の開催について
3. 事務長部会研修会について
4. 病院栄養関係職員医療安全対策研修会について
5. 賛助会員の入会について

【協議事項】

1. 「認知症対応力向上講習会B」後援依頼について
2. 平成30年度診療報酬改定影響度調査について

【報告事項】

1. 県行政委員等の推薦について
 - ・平成30年度山口県男女共同参画推進連携会議委員
副会長 水田 英司（再任）
 - ・山口県高齢者保健福祉推進協議会委員
常任理事 高橋 幹治（再任）
2. 県各種委員会等の結果報告について

三浦副会長

 - ・平成29年度第2回山口県社会福祉審議会（3月26日）

水田副会長

 - ・平成30年度山口県献血推進協議会（5月10日）

3. その他

平成30年度 第1回情報管理委員会

日 時 平成30年6月15日（金）15：00～17：00
開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 7月号の発行について
2. 10月号の発行準備について
3. その他

お知らせコーナー

山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰

平成30年6月17日、山口県病院協会より推薦した7名の方が、多年にわたり看護業務に従事した功績により山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰を受賞されました。おめでとうございます。

氏名（50音順）	病院名
伊藤 令子	山口県立総合医療センター
河野 智賀子	重本病院
木村 啓子	山口赤十字病院
野村 元久	小野田心和園
光永 敬子	防府リハビリテーション病院
山根 雅美	済生会豊浦病院
結城 美重	山口大学医学部附属病院



左より受賞者 伊藤、木村、山根、結城の各氏



河野氏



野村氏



光永氏

会員等の異動

会員の變更

- ・宇部興産中央病院
- ・田代台病院
- ・稗田病院
- ・美祢市立病院
- ・山口宇部医療センター
- ・山口県立総合医療センター
- ・山口労災病院

變更後

病院長	清水 昭彦
理事長	河野 佳宣
理事長	新谷 幸義
病院長	松永 登喜雄
病院長	亀井 治人
病院長	武藤 正彦
病院長	田口 敏彦

變更前

病院長	武藤 正彦
理事長	中邑 義継
理事長	新谷 太郎
病院長	本間 喜一
病院長	松本 常男
病院長	前川 剛志
病院長	坂部 武史

病院協会の主な行事予定

- | | | |
|---------|-----------------|------------------|
| ○ 7月20日 | 第2回理事会 | (会場：新山口ターミナルホテル) |
| ○ 8月23日 | 栄養関係職員医療安全対策研修会 | (会場：山口県総合保健会館) |
| ○ 8月31日 | 夏季医療経営講習会 | (会場：山口グランドホテル) |

訃報

当協会理事・社会医療法人同仁会周南記念病院理事長の 竹重 元寛先生が
6月16日に逝去されました。
謹んでお悔やみ申し上げます。



編集後記

いつの間にか入梅し、その割には雨が降らない。ただ、降る地方にはどっと降り、災害をもたらす。まったくきまぐれな天気だなあ、と思います◆熊本地震の復旧も未だ終わっていないこの時期に、またしても大阪北部地方を襲ったマグニチュード6.1、震度6弱。救護の出動要請が少なくてよかったと思う反面、自分の通っている小学校の建築基準を満たしていないブロック塀が倒れて犠牲になるなんて、これって天災？人災？犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被害がこれ以上拡大せず、一日も早い復興をお祈り致します◆さて、今月号は5月の定時総会の記事がメインです。優良従業員表彰を受賞された皆さん、おめでとうございます。病院にとってベテランの皆さんの経験と知恵が益々必要となってきます。今後のご活躍をお祈りします◆そして役員コーナーでは2人の先生から、病院にとっての今後の重要な課題を、またスタッフコーナーでは4人の方から、仕事に対する情熱や医療連携の大切さをご提示いただきました◆県健康福祉部との医療懇話会では、活発な意見交換がなされました。山口県の医療、良くなるとういすね◆病院協会にとってうれしいニュースのひとつとして、この春、当協会常任理事の吉田先生が叙勲の榮に浴されました。おめでとうございます◆ところで4月の診療報酬・介護報酬同時改定の影響はいかがでしょうか？知恵を絞った対応が、果たして吉とでるか凶とでるか正念場を迎えました。なお今年度も改定影響度調査を実施するよう準備しております◆さあ、いよいよ暑い夏本番です。熱中症に気をつけて頑張っていきましょう！

(水田英司)